



若鷹だより

高山市立荘川中学校
平成29年12月

平成29年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

校長 岡本 昌昭

先日、見出しの件で文部科学省講堂にて荘川小中学校が表彰をしていただきました。提出した参考資料（中学校分）の一部を紹介したいと思います。

1 荘川っ子 はぐくみネット

平成25年度から、荘川の子どもたちの現状と取り巻く環境を正しく理解し、どのように子どもを育みたいのかという願いを共有し、子どもを健やかに育むことを目的として組織を立ち上げた。

まちづくり協議会社会教育部が主催となり、年2回の「荘川っ子 はぐくみネット」の会を開催している。関係者約50名が集まり意見交流を行う。今年度のテーマは、①大人から子どもへ子どもから大人へ、お互いに心に届く挨拶とメッセージの推進 ②子どもに甲斐性を出させ、我慢強くやり抜く力をつけるための具体的計画と実践とし交流を深めた。テーマ②の具現とし、昨年度から地域合同子ども会でディキャンプを実施している。内容は、川遊びや魚つかみ、鮎釣り体験、カレーライスづくり、魚の塩焼き、キャンプファイヤーで、子ども約120名、保護者約30名の参加があった。

2 荘川保小中一貫教育の推進

平成23年度より、保小中の12年間で連続した「荘川学校」の構想をもとに取組が始まる。その大きな柱は、①郷土教育を軸とした地域とともに歩む学校、②一人ひとりの子に確かな学力を身につける教育の推進である。

平成29年度には、荘川保小中合同運営協議会を発足し、「社会に開かれた学校」から「地域とともにある学校」を目指し取り組み始めている。会員は約20名、年3回の会を開催する。その内2回は、学校の経営方針や自己評価結果等について、授業や行事の参観を行った後の児童生徒の姿について意見交流を実施する。あと1回は、保小中公表会后、今後の教育環境のあり方等について意見交流を実施する。これ以外にも、保小中参観パスポートを配布し、年間を通して参観ができる仕組みを整備した。

3 地域と連携した郷土学習

1年生は、「地域を知る」取組を行い、地域の方に案内していただきながら地域の史跡を巡ったり、地域文化（歴史・食文化・自然）に携わる方から生き方や考え方を学んだりして、地域の良さを再発見し地域マップを作成することを通して郷土を大切に作る心を育てている。

2年生は、「地域から学ぶ」取組を行い、地域の独特の文化や人々の知恵を学んでいる。荘川独自の食文化の「どぶ汁」「朴葉ずし」をつくったり、「花もち」、木々を使って「かんじき」を作ったりする体験などを行い、雪国の生活の工夫を実感している。

全校では、荘川の郷土芸能である「獅子舞」「笠踊り」に取り組んでいる。「獅子舞」では、生徒一人ひとりが、獅子舞・お囃子・謡のいずれかを担当し、「獅子舞」をつくりあげている。これらは、文化祭やふるさと祭り、保小中公表会などで披露している。学年が上がるにつれて、伝統文化の継承についての意欲や意識が高まっている。

4 中学校文化祭と地域芸能祭の共同開催

平成27年度から、地域の郷土芸能祭と同一日に同会場で行っている。午前の部が、中学校の文化祭、午後の部が地域の郷土芸能祭である。文化祭では、全校で「獅子舞」や「全校合唱」を、各学年では、少人数ではあるものの見応えのある「劇」を披露している。生徒の保護者はもちろんのこと、地域の方々にも見ていただいている。また、午後からの地域芸能祭や文化展を生徒も鑑賞している。

5 荘川地域ふるさと祭りへの参加

毎年、荘川地域では町を挙げてのふるさと祭りを開催している。今年で30回目となった。これまでに学んできた「獅子舞」「笠踊り」を披露している。「獅子舞」は、3年に一度のひねり踊りの中に位置づけられて行っている。「笠踊り」に関しては、民謡保存会の方と共に行っている。これらは、地域のイベントの盛り上げ役として中学生が意欲的に参加し、自分たちの地域の誇りとして自負し堂々と踊っている。そして、自分たちが地域の伝統芸能をしっかりと引き継いで、将来につないでいこうという強い願いがある。